



1. きっかけ

きっかけは約4年前(2016年8月)

- 当日91歳の岡山在住の祖母
- ひ孫に会いたいと上京を願いつつも、他人に迷惑をかけたくないと、ためらう気持ちが先行

- ◆ 介助をする側と受ける側の関係性
- ◆ 自律的な移動のあり方

- ひ孫と対面 ケータイ写真も最高に嬉しいけど、やっぱり本物の対面に勝るものはない

笑顔・生きる証・生き甲斐



他のお客さま、そのご家族、ご友人、
介助者、係員(サービス提供者)の皆さまにも
「笑顔・生きる証・生き甲斐」を！



プライベート活動(ANAバーチャルハリウッド[社員提案制度]など)から
会社の新規事業(ANA企画室MaaS推進部)へと活動の軸を移しながら
社内外問わず様々な方々との議論・実証実験を通じて**進化**



「移動」の概念を変えて
誰もが自由に移動できる社会を創る！



誰もが移動をあきらめない世界へ！

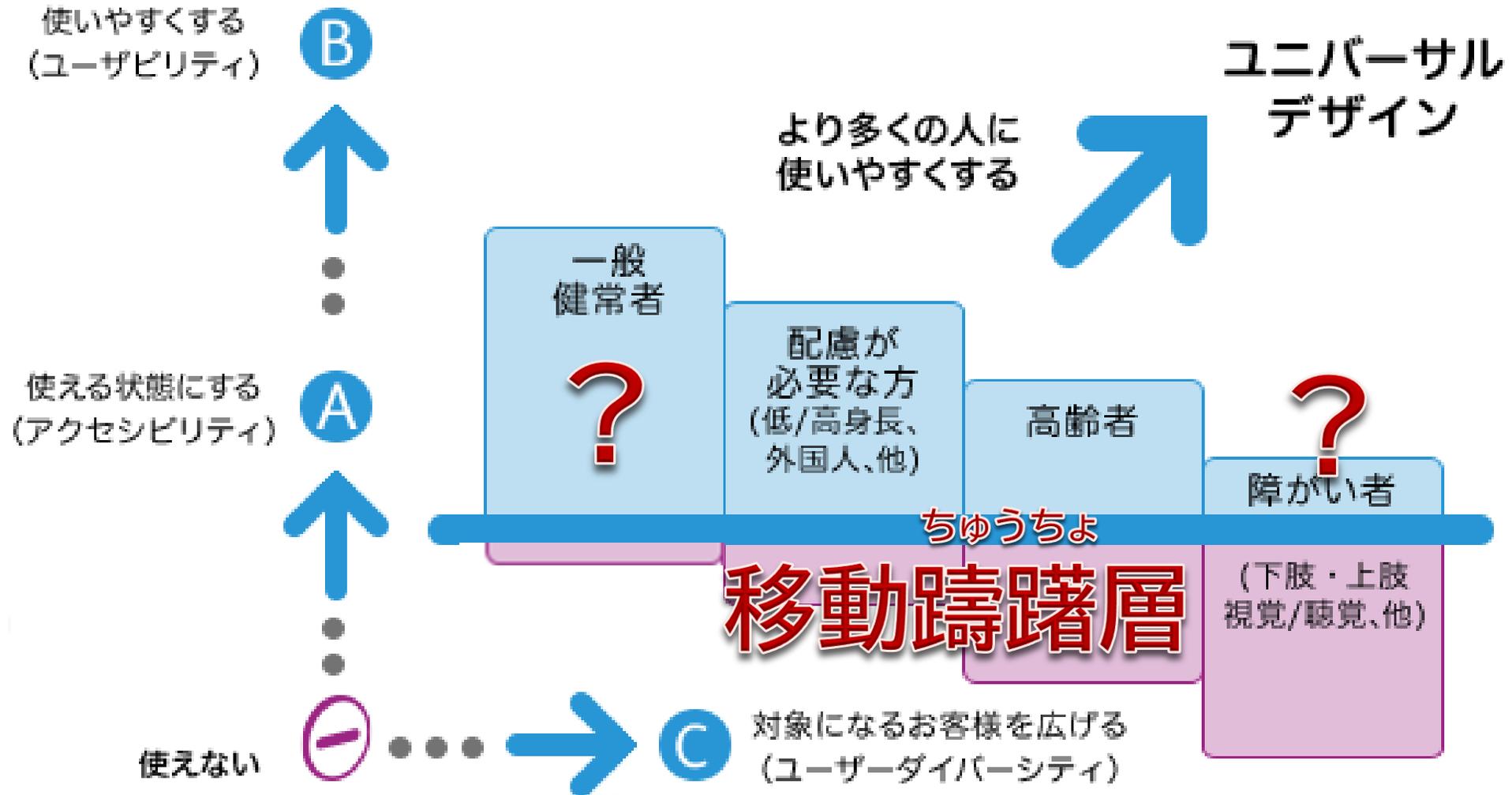




2. Universal MaaSとは？

ユニバーサルデザイン × MaaS

我々が考えているユニバーサルデザインとは？



我々が考えているMaaSとは？

MaaS(Mobility as a Service)

→いろいろな種類の交通サービスを、需要に応じて
利用可能な一つの移動サービスに統合すること。

MaaSのレベル定義



仮説： 出発地から目的地まで、お客さまと各サービス提供者間で 以下を連携すれば、双方ハッピーになるのでは？

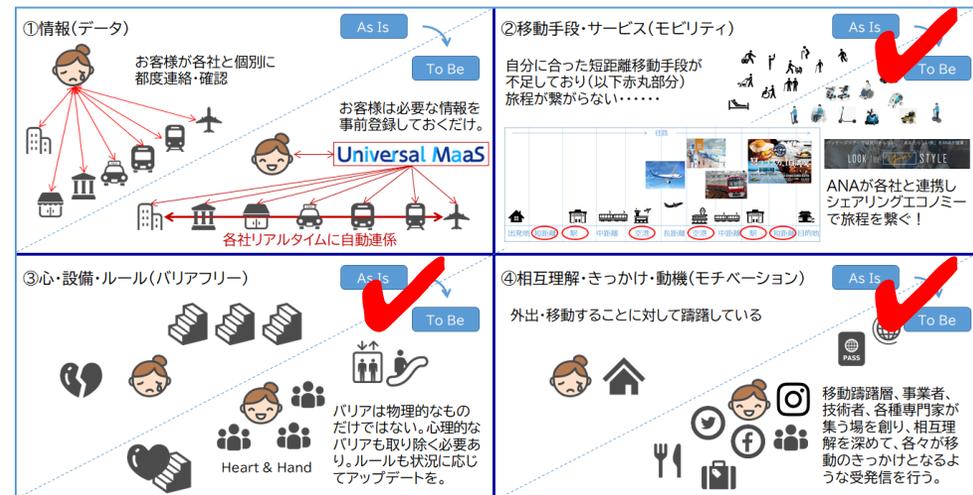




自分に合った移動手段 に出合った瞬間



笑顔・生きる証・生き甲斐
 「お客さま&サービス提供者」



スムーズに移動可能 となった瞬間



笑顔・生きる証・生き甲斐
「お客さま&サービス提供者



誰もが移動をあきらめない世界

||

全ての人が自分に合った移動手段を選択可能となり、
どの手段でもスムーズに移動できるような仕組みが

お客さま・サービス提供者

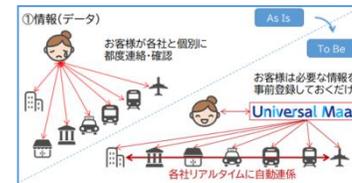
双方の目線で構築されることにより、

誰もが自由に移動できる社会ができあがる。

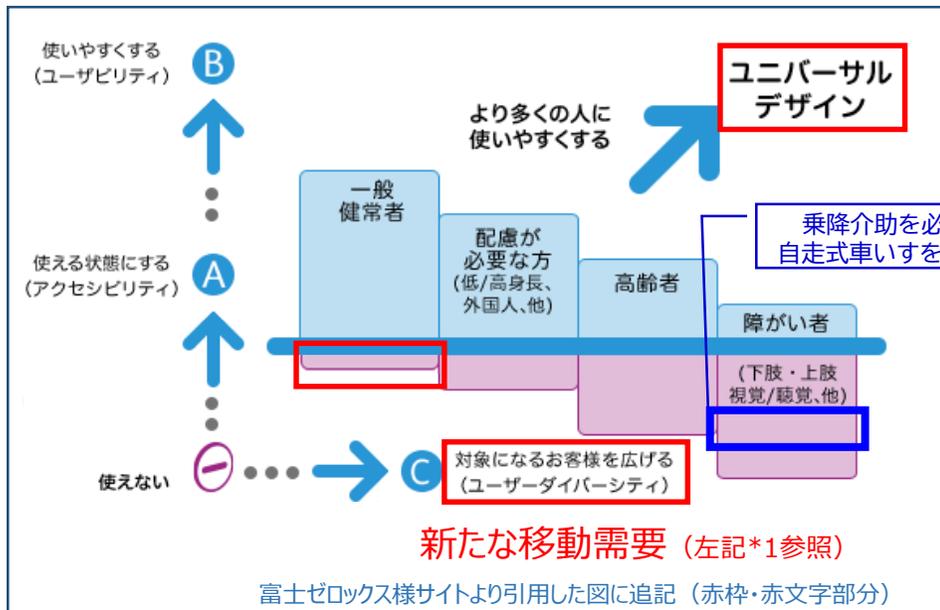
3. 昨年度の実証実験概要

昨年度の実証実験範囲

- ・お客さま : 乗降介助を必要とする自走式車いすをご利用の方
- ・サービス提供者 : 羽田空港第2ターミナル⇔馬堀海岸駅⇔横須賀美術館
- ・対象 : 仮説①情報(データ)



【お客さま役】



【サービス提供者】



各機関の役割

連携4者	位置づけ	本プロジェクトにおける役割
ANA	交通事業者	「Universal MaaS」のプロジェクトリーダー
京急電鉄	交通事業者	事業フィールド(鉄道、バス等の有形・無形のアセット)の提供
横須賀市	自治体	市内施設・店舗情報等の提供、同施設・店舗との調整など
横浜国大	大学	専門的見地からの助言、合意形成支援、データの取得と解析など

実証実験パートナー(2020年2月7日時点)

- ①アドバイザー
LocaliST株式会社
- ②実証フィールド
Haneda Robotics Lab(日本空港ビルデング株式会社)
- ③車いす用データ提供
一般社団法人WheeLog
- ④システム開発
株式会社パソナテック:アプリケーション、インフラ基盤
日本電気株式会社:混雑レベル表示機能
株式会社NTTドコモ:行き先間違い防止機能
株式会社ヴァル研究所:乗り継ぎ検索機能



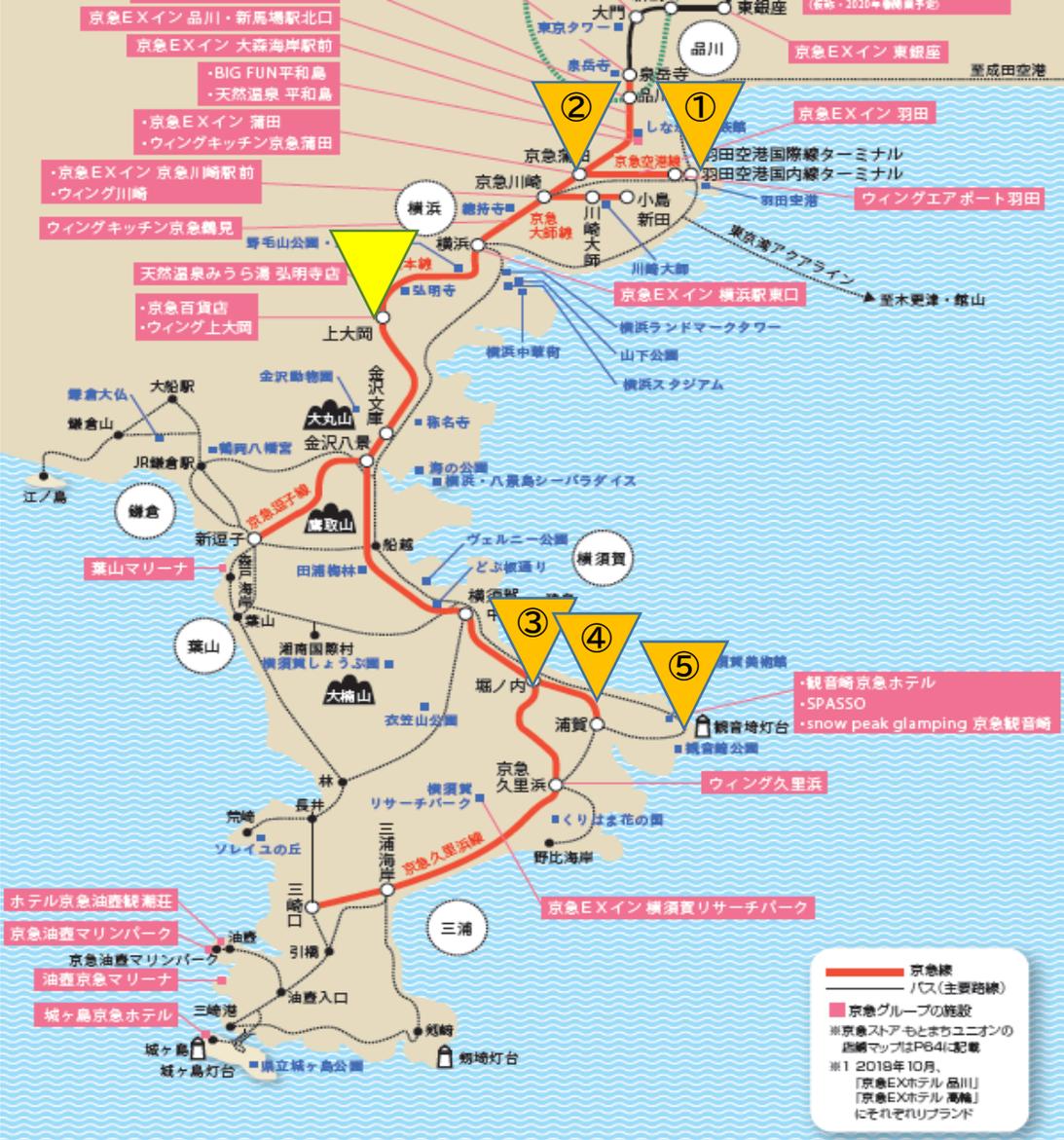
これまでのスケジュール

	日時	イベント
2018年度	7月10日	ANA内で活動開始
2019年度	5月26日	実証実験①
	9月13日	技術検証
	11月13日	実証実験②
	12月13日	実証実験③
	1月14日	実証実験④
	2月7日	合同記者会見

主な課題

被験者	場面	課題
お客さま	自宅(目的地決定時)	・各サービス提供者に連絡 ・自分の特性を伝え利用可否を確認する必要あり
	空港、駅	・自分の特性に合ったルートがわからない(自分が利用可能なトイレやEVは?) ・窓口で手続きに時間がかかる(体感時間含む)
	乗り継ぎ	・自分の特性に合った乗り継ぎがわからない(一般の乗換案内と異なる)
	電車の中	・トイレに行きたいけど途中下車できない ・今、どの辺を走っているかわからない ・希望の駅で降りられるか?(駅係員がちゃんと待っていてくれるか?)不安 ・ハプニングが起きたら心配
サービス提供者	空港係員、駅係員、施設係員 それぞれの持ち場	・「お客様の求めている介助内容は?」「いつ到着されるか?」 「今、どこにいるのか?」がわからない
	:	:

主な気づき(一例)



【通常の経路検索】

【車椅子ご利用の方が
 利用しやすい経路検索】

① 羽田空港第1・第2ターミナル駅(乗車駅)

② 京急蒲田駅(乗り換え駅)

上大岡駅(乗り換え駅)

改札、ホームが3階層に分かれる駅であるため、不測の事態に対応しづらい

屋内ホームであり、移動が手軽

③ 堀ノ内駅(乗り換え駅)

④ 馬堀海岸駅(下車駅)

⑤ 横須賀美術館(目的地)



【京急蒲田駅】

2018年6月8日現在

プロトタイプツール(今回はモバイルアプリで提供)

①お客さま用(スマートフォン Andoroid)



②サービス提供者用(iPad)



移動時に介助を必要とする車いすをご利用のお客さま向けのバリアフリー乗り継ぎルートナビ。空港から目的地までの経路検索や、空港や駅構内・施設周辺のルート案内が確認できます。

お手伝いが必要なお客さまの位置情報や属性情報を閲覧できます。お客さまが空港や駅、施設に接近したことをアプリで通知します。

ご参考：プレスリリース



ANA Inspiration of JAPAN KEIKYU 京急電鉄 横須賀市 Yokosuka City YNU 横浜国立大学

共同リリース

2019年6月27日
全日本空輸株式会社
京浜急行電鉄株式会社
横須賀市
横浜国立大学

ユニバーサルデザインに基づく総合的な移動サービス「Universal MaaS」の産学官共同プロジェクトを開始します
～移動をあきらめない世界の実現を目指します～

全日本空輸株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：平子裕志、以下「ANA」）は、京浜急行電鉄株式会社（本社：東京都港区、取締役社長：原田一之、以下「京急電鉄」）、横須賀市（市長：上地克明、以下「横須賀市」）、横浜国立大学（学長：長谷部勇一、副学長：中村文彦^{※1}、以下「横浜国大」）とともに、ユニバーサルデザインに基づく総合的な移動サービス「Universal MaaS」の産学官共同プロジェクトを開始します。



「Universal MaaS」の考え方

このプロジェクトでは、これまで個別にサービスを提供してきた各事業者が垣根を越えて連携し、ユニバーサルデザインの発想で包括的な移動サービスを提供することにより、お客さまの新たな移動体験の創出を目指します。さらに、事業者間での情報の連携と共有により、お客さまの移動・活動を支援する人員の動きを最適化することで、お客さまとサービス提供者の双方にメリットのある仕組みを共創します。今後、複数の協力企業を加え、まずは2019年秋に横須賀市において、その有効性の検証および課題抽出を行う実証実験を実施します。

2019年
6月27日

Universal MaaSの産学官
共同プロジェクト
を開始



ANA Inspiration of JAPAN KEIKYU 京急電鉄 横須賀市 Yokosuka City YNU 横浜国立大学

共同リリース

2020年2月7日
全日本空輸株式会社
京浜急行電鉄株式会社
横須賀市
横浜国立大学

Universal MaaS の社会実装に向けた連携開始について
～誰もが移動をあきらめない世界の実現を目指し 2020年度内の実装開始を目指します～




全日本空輸株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：平子裕志、以下「ANA」）、京浜急行電鉄株式会社（本社：横浜市西区、取締役社長：原田一之、以下「京急電鉄」）、横須賀市（市長：上地克明、以下「横須賀市」）、横浜国立大学（学長：長谷部勇一、副学長：中村文彦、以下「横浜国大」）は、さまざまな理由で移動にためらいのある人々に提供する移動サービス Universal MaaS の社会実装に向けた連携を開始します。

まずはこちらの動画をご覧ください。



2020年
2月7日

社会実装に向け
た連携開始

※詳細は左記
QRコードより、
Universal MaaSの
プロモーションビデオ
をご参照ください

ご参考: 2020年2月7日共同記者会見



(右から2人目より)
ANA 平子裕志社長／京急電鉄 原田一之社長／ANA大澤信陽／
横須賀市 上地克明市長／横浜国大 中村文彦副学長ら

点から線へ、線から面へ、日本全国へ、世界へ！

Universal MaaSの輪を広げ、
誰もが移動をあきらめない世界を創りたい！！



Universal MaaS

~誰もが移動をあきらめない世界へ~

ご清聴いただきありがとうございました